

2020年7月1日発行

社会福祉法人暁会

山口県下関市大字小野 64 番地の 1

2020
夏号
No. 83



あかつきだより





第三者評価を受審して

特別養護老人ホームフェニックス



山口県福祉サービス第三者評価受審証明書

事業名 社会福祉法人 晩会

上記の者は、次のとおり福祉サービス第三者評価を受審したことを証明します。

- 1 施設名 特別養護老人ホーム
フェニックス
- 2 受審年月日 令和2年2月25日
- 3 評価機関名 社会福祉法人 山口県社会福祉協議会
- 4 公表期間 令和2年5月28日から
令和5年3月31日まで

令和2年5月28日

山口県知事 村岡 嗣 政



評価報告概要表

■第三者評価機関

名称	社会福祉法人 山口県社会福祉協議会
評価調査日	令和2年2月25日（火）

■福祉サービス事業者情報

名称	フェニックス	種別	特別養護老人ホーム
代表者氏名	施設長 吉水 千賀子(従来型) 施設長 奥村 伊勢子(ユニット型)	開設年月日	平成8年1月11日
設置者	社会福祉法人 晩会	定員(利用人数)	120名(114名)
所在地	〒751-0887 下関市大字小野64-1		
電話番号	083-256-5336	FAX番号	083-256-5025
ホームページアドレス	http://www.nhatsukai.com/		

■総 評

全体を通して(事業所の働いている点、独自に工夫している点など)

- 特に評価の高い点
- 法人理念、基本方針は、明文化され広く周知されています。経営状況の把握や分析等についても適時行われ、組織的に改善策が検討され取り組まれています。
- 計画的な自己評価の実施や継続的な第三者評価事業の受審は、福祉サービスの質の向上を目指す組織としての意識の高さが伺えます。また公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組として、内部監査の実施とともに外部の専門職によるチェックシステムを構築し、実施されていることが高く評価されます。
- 施設事業全体に係わる各種マニュアルが整備、充実され、人材育成の面においても年間教育計画に沿ったOJTの実施や階層別の研修の実施等、職員一人ひとりの育成に向けた研修体制が確立されています。
- 利用者の生活支援については、多職種が連携してサービス計画書が作られ、計画に沿ったケアや機能訓練が実施され、モニタリングや評価も適切に行われています。また利用者の権利擁護に対する職員の意識も高く、組織としても様々な取組により権利侵害の防止等に努められています。
- 地域交流や地域のニーズに基づく公益的な活動に積極的に取り組まれています。
- 改善を求められる点
- 理念や運営基本方針に基づき実施する福祉サービスの内容、組織体制や施設設備の整備、人材育成等に関する中・長期計画の財務面の裏付けとなる、中・長期の収支計画を策定されることが期待されます。

新型コロナウイルスの問題で世間が喧しくなり始めた去る2月25日、従来型、ユニット型特養は社会福祉協議会が実施する『第三者評価』を受審しました。『第三者評価』とは特養や障害施設が提供する福祉サービスの質について公正、中立な第三者機関が専門的、客観的立場から評価を行う仕組みであり、利用者の立場に立った良質かつ適切なサービスの提供と福祉サービスの質の向上に資する措置の一環とされています。特養では平成24年に受審しており、平成28年のISO9001認証後、外部評価を受けるのは4年ぶりのことでした。

昨年の秋より吉水、鬼村両施設長の号令を機に役職者会議、リーダー会議において職員に周知し、事務課を含めた役職者を中心に職員一丸となって、自己評価表の作成、各種会議、委員会の議事録や規定、マニュアル等の根拠資料の準備に各々が鋭意取り組みました。1月10日の提出期限までに事前資料を発送し、翌月の25日に社協の調査員3名を施設に迎えました。午前は事前提出した自己評価調査票や評価項目ごとの資料(エビデンス)や

マニュアルの検分、施設視察、午後は各専門職への面談と聴き取りというスケジュールでした。折からの感染症対策のための面会制限中ということもあり、予定していた入居者数名への聴き取りは中止となりましたが緊張と高揚の中、首尾よく調査を終える事が出来ました。

そして5月の下旬、結果を示す評価報告書が届きました。内容は評価項目全62項目中、a評価が59個、b評価が3個、c評価は0という前回を上回る結果を得たのです。特に『良質な個別サービスの実施』に係る17項目においては全てa評価であり、関わった職員も3ヶ月に亘る努力が報われ、一様に安堵と、喜びの表情を浮かべていました。これからも私達は今回の結果に甘んじることなく、法人の理念、基本方針に則り、入居者1人1人がその人らしく暮らせるようサービスの質の向上に取り組んで行きたいと思ひます。

5月10日(日)に特養本館主催の母の日会を開催しました。当日はコロナウィルスの影響により合同で母の日会を実施せず、各棟で場所、時間帯をずらして、なるべく三密にならないよう気をつけました。

入居者様に母の日の由来を説明して、クイズやレクリエーションで盛り上がりました。また童話や1960年代の曲を歌って、昔を思い出しながら楽しめました。また職員が母の日の感謝の思いを伝えると涙を流しながら感動して「よかったね」と喜ばれる入居者様もいました。

レクリエーションは昔遊びの輪投げやお手玉をして「なつかしいね、輪投げは難しいね」と言いながら昔を回想して嬉しそうな表情で取り組まれました。

最後に職員が作成したカーネーション付きのメッセージカードを手渡し、全入居者様の居室に貼りました。手作りのカーネーションは入居者様に大変喜ばれました。入居者様が施設での生活をより一層楽しんでいただけるよう、今後職員一同感謝の気持ちを込めて支援していきます。



母の日会

特別養護老人ホームフェニックス

父の日会



6月21日(日)総勢11名の男性入居者様、利用者様を対象に、A棟デイルームにて父の日会を開催しました。

昔を懐かしんでいたけう、暖簾やお品書きを用意し、演歌を流しながら居酒屋の雰囲気味わえる会場づくりにしました。メニューは、おでんの大根、つくね、たまご、冷奴に枝豆やフライドポテトを準備し、飲み物はノンアルコールビールと甘酒の2種類から選べるようにしました。

初めに「父の日とは何をする日か知っていますか。」と職員が質問すると「妻に感謝する日かな」との声が上がり、会場内に笑顔があふれ、一気にリラックスした雰囲気となりました。

職員より感謝を込めた写真入りのカードをお一人ずつ手渡しと、ご自分の顔写真を見て照れ笑いを浮かべたり、表情を変えずにピースサインで応えたりと様々な反応を見せてくださいました。ビールを飲みながらおでんを食べる姿は、まさに『昭和のおやじ』そのものでした。

日頃、口数の少ない男性陣ですが「こんなに楽しい事を考えてくれてありがとう。」との大変嬉しいお言葉も頂戴でき、職員一同感激しました。

今後も、皆様に喜ばれる行事を考えていきたいと思ひます。



玉ねぎ掘り



児童デイサービスセンターフェニックス

児童デイサービスでは普段から食育、体力作り、生物の観察など様々な目的を持って、昭和病院リハビリ農園に散歩に行っています。そこでの発見・経験は子ども達の成長の糧になっています。散歩で会う職員や地域の方々にはいつも温かい言葉をかけてもらっています。子ども達の家族からも、家庭ではできない経験ができると喜ばれています。

今年も梅雨に入り雨の日も多いですが、子ども達と一緒に農園へ玉ねぎ掘りに出かけました。長靴を初めて履く子どももいましたが、上手に歩き、手をつないで畑へ出発。畑に着くと、玉ねぎ掘りが始まりました。

しっかりと土に根を張った玉ねぎは大人でも抜くときに思わず息が止まるほどでした。去年も参加した子どもは畚鍬を得ており、

腕だけでなく全身に力を入れて上手に抜いていました。みんなに応援されて、抜けると歓声があがり、満面の笑顔が見られました。たくさん玉ねぎを抜いたり、初めて玉ねぎの葉を触ったり、それぞれが普段できない体験をして、みんなに褒められて、たくさん笑いました。掘った玉ねぎを家に持ち帰り、頑張ったことを家族に伝えることができました。

このような行事は、普段食べているものかのようにできているのかを知るよい機会になります。今年は御田植祭が中止になり残念でしたが、来年は新型コロナウイルス感染症が落ち着き、今までのように御田植祭に老若男女を問わずみんなが笑顔で集えますように。そんな世の中になるよう期待します。

会議中



WEB会議

新型コロナウイルスにより、我々の日常生活も大きく様変わり、気の抜けない日々が続いてはいますが、コロナの影響で少し改善できた部分もあります。

全国に緊急事態宣言が発令された4月より、晩会の経営者会議はZoomを使用しています。Zoomはパソコンや携帯電話とWi-Fi環境があればどこでも会議に参加でき、録画、画面の共有など便利な機能も付いて、料金も低額です。

東京、防府、市内各所に事業を展開する晩会にとつて、大変有効な会議方法だと思えます。まだまだ、コロナ禍での生活は継続することを覚悟して、さまざまな場面でWEB会議も有効活用していきたいと思っています。



令和2年度の熱中症予防行動

環境省
厚生労働省
令和2年5月

「新しい生活様式」における熱中症予防行動のポイント

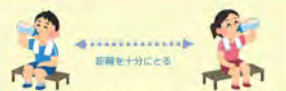
新型コロナウイルスの出現に伴い、感染防止の3つの基本である①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗いや、「3密（密集、密接、密閉）」を避ける等の「新しい生活様式」が求められています。このような「新しい生活様式」における熱中症予防行動のポイントは以下のとおりです。

1 暑さを避けましょう

- ・エアコンを利用する等、部屋の温度を調整
- ・感染症予防のため、換気扇や窓開放によって換気を確保しつつ、エアコンの温度設定をこまめに調整
- ・暑い日や時間帯は無理をしない
- ・涼しい服装にする
- ・急に暑くなった日等は特に注意する



2 適宜マスクをはずしましょう



- ・気温・湿度の高い中でマスク着用は要注意
- ・屋外で人と十分な距離（2メートル以上）を確保できる場合には、マスクをはずす
- ・マスクを着用している時は、負荷のかかる作業や運動を避け、周囲の人との距離を十分にとった上で、適宜マスクをはずして休憩を

3 こまめに水分補給しましょう



- ・のどが渇く前に水分補給
- ・1日あたり1.2リットルを目安に
- ・大量に汗をかいた時は塩分も忘れず

4 日頃から健康管理をしましょう



- ・日頃から体温測定、健康チェック
- ・体調が悪いと感じた時は、無理せず自宅で静養

5 暑さに備えた体作りをしましょう



- ・暑くなり始める時期から適度に運動を
- ・水分補給は忘れずに、無理のない範囲で
- ・「やや暑い環境」で「ややきつい」と感じる強度で毎日30分程度

高齢者、子ども、障害者の方は、熱中症になりやすいので十分に注意しましょう。3密（密集、密接、密閉）を避けつつ、周囲の方からも積極的な声かけをお願いします。



新型コロナウイルス感染症に関する情報：
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/touryu/0000154708_00001.html
熱中症に関する詳しい情報：<https://www.wbct.env.go.jp/>



編集後記



今年は、冬から続くコロナ禍の中、これまで経験したことのない夏を迎えることとなります。

「新しい生活様式」では、コロナウイルス感染予防の基本である、身体的距離の確保、マスクの着用、手洗いといった、「3密（密集・密接・密閉）」を避ける行動が求められています。

しかし、暑い季節のマスクの着用については、注意も必要です。「新しい生活様式」における熱中症予防のポイントをしっかりと確認し、十分な感染症予防を行いながら、熱中症予防にもこれまで以上に心がけるようにしましょう！



【お問合せ先】

TEL 083-25615336
FAX 083-25615025
フェニックス広報委員長
藤本 美紀

編集 久保田 知子